

皆さんが納めた税金や国・県からの支出金、地方交付税は、どのように使われたのでしょうか？昨年度の南国市の収入と支出についてお知らせします。

総括 7億7,542万3千円の黒字 借金である地方債借入残高は増加

南国市の平成30年度普通会計の決算状況は、歳入が216億2,746万6千円、歳出が206億8,305万2千円で、歳入歳出差引額は9億4,441万4千円となりました。翌年度への繰り越し財源1億6,899万1千円を除くと7億7,542万3千円の黒字となります。

また、歳入の根幹をなす市税総額は1億4,856万7千円の増額となり、地方交付税は6,731万2千円の増額、臨時財政対策債も469万8千円の増額となりました。

地方債借入残高は、平成30年度末残高193億2,783万円、5億310万2千円(2.7%)の増となっています。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は91.4%と前年より1.0ポイント低下し、財政の硬直化はやや改善されました。

今後も、公債費負担適正化計画などにより、健全な財政運営確立に向け行財政改革を進めていきます。

歳出

歳出総額は、206億8,305万2千円で、前年度決算額に比べて1億3,852万円(0.7%)の増額となっています。

性質別歳出の状況は、義務的経費のうち人件費は、退職手当などの増により、9,549万2千円(2.9%)の増額となりました。

扶助費は、臨時福祉給付金事業費(経済対策入)などの減により、1億8,732万2千円(1.8%)の減額となりました。

公債費は、1億2,391万5千円(6.5%)の減額となりました。

投資的経費は、都市再生整備事業費や土地区画整理事業費などの増により、2億6,575万1千円(10.1%)の増額となりました。

物件費は、電子自治体推進事業費や給食センター運営事業費などの減により、4,831万6千円(1.8%)の減額となりました。

補助費等は、水道事業会計繰出金の増により、2,123万3千円(1.4%)の増額、繰出金は、471万8千円(0.2%)の減額となりました。

積立金は、ふるさと応援基金積立金や財政調整基金積立金などの増により、1,988万1千円(17.8%)の増額となっています。

歳入

歳入総額は、216億2,746万6千円で、前年度決算額に比べて2億6,896万1千円(1.3%)の増額となりました。

市税では、市民税1億2,891万6千円、固定資産税2,770万3千円、軽自動車税607万5千円の増額となり、市たばこ税1,171万6千円の減額となり、税込全体では1億4,856万7千円(2.5%)の増額となりました。

地方交付税は、6,731万2千円(1.7%)の増額となりました。

国庫支出金は、社会資本整備総合交付金などの増により、2億9,979万8千円(7.9%)の増額となりました。

県支出金は、複合経営拠点支援事業費補助金などの増により、575万4千円(0.3%)の増額となりました。

地方債は、都市再生整備事業や土地区画整理事業等の普通建設事業費の増により、9,159万8千円(4.4%)の増額となりました。

●普通会計とは？

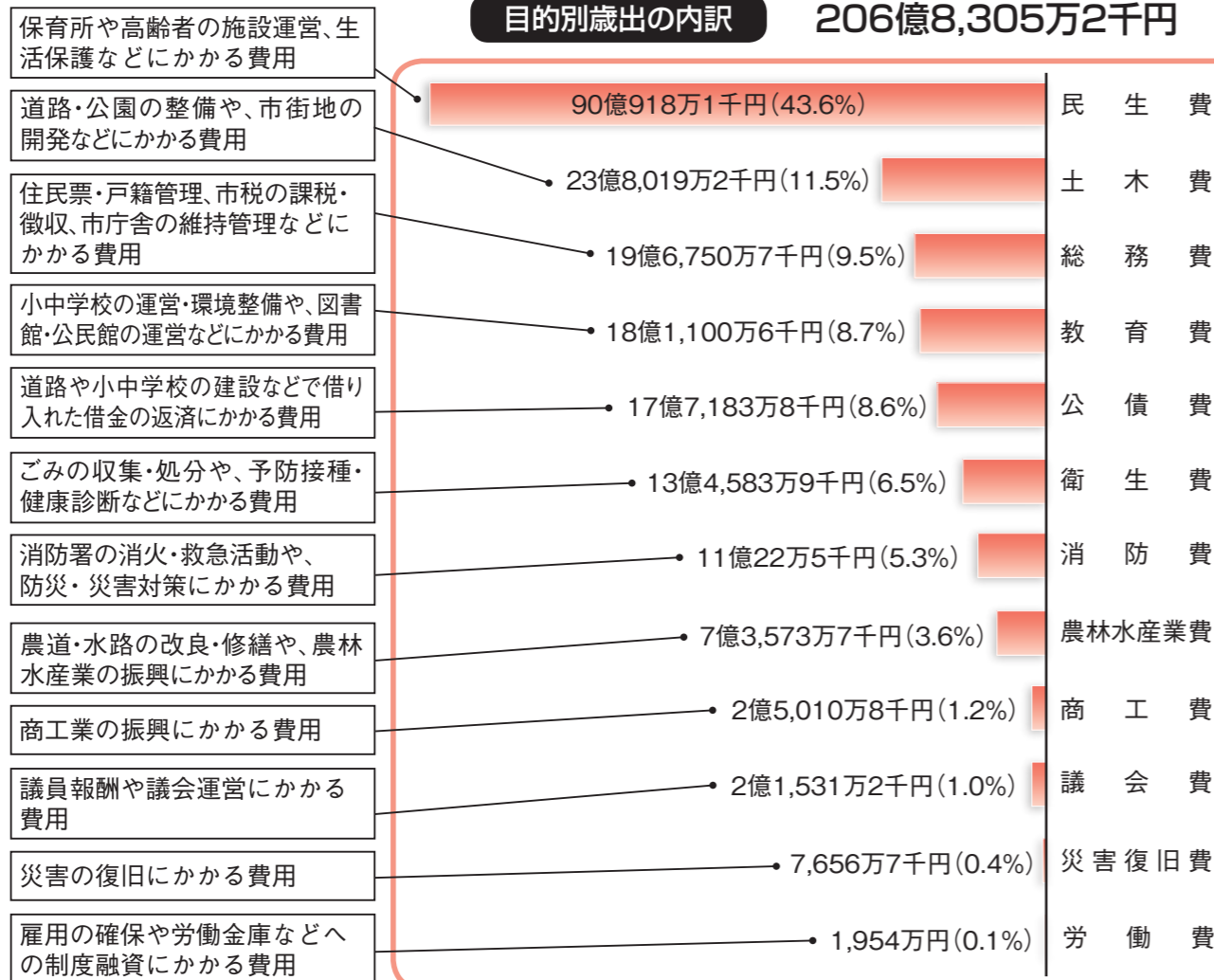
一般会計・住宅新築資金等貸付事業特別会計・土地取得事業特別会計の合計額から、繰り入れや繰り出しなど、会計間の重複額を控除した統計上の会計区分です。

●経常収支比率とは？

地方税や普通交付税などの経常一般財源収入のうち、人件費や扶助費、公債費など毎年度経常的に支出される経費にどれだけ充当されたかを示すもの。比率が高いほど、財政構造の硬直化が進んでいることを表します。

用語解説

目的別歳出の内訳 206億8,305万2千円



歳入の内訳 216億2,746万6千円

